

【研究名】： バンコマイシン療法に及ぼす尿中アルブミンの影響

【研究目的】

腎機能は血清クレアチニンという検査値で評価されていますが、糖尿病の合併症の1つである糖尿病性腎症では腎機能が実際の値より高く算出される傾向にあり、正確に評価する事が難しいです。2013 年度の慢性腎臓病の診療ガイドラインでは、慢性腎臓病をステージ別に分類する時の項目の 1 つとして尿中アルブミンが追加されています。腎臓の機能が悪くなると、糸球体での濾過機能が低下してしまいます。そうすると、本来は尿中へ排泄されないはずのタンパク質が排泄されてしまい、これが尿中アルブミンとなります。

バンコマイシンは腎臓で排出される薬剤であり、腎臓の悪くなった患者さんでは、量を減らしたり回数を減らしたり、調節して使用する必要があります。そのため、投与する時には腎機能の評価が重要となってきます。腎機能の評価するには、推算糸球体濾過率の値だけではなく、尿中アルブミンの検出も重要になると考えられますが、まだどのような影響を及ぼすのか明らかになっていません。そこで今回は測定した尿中アルブミンがバンコマイシンの血中濃度にどのような影響を及ぼすかを検討します。

【研究意義】

バンコマイシンを使用していて且つ、尿中アルブミンの測定を行った患者さんにおいて、尿中アルブミンの検出がバンコマイシン療法においてどのような影響を与えるのかを検討します。

【調査の対象となる患者さん】

2010 年 4 月～2015 年 3 月の間にバンコマイシンを投与して血中濃度を測定しかつ尿中アルブミンの測定を行った患者さんです。ただし、透析中の患者さんは除きます。

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。

性別、年齢、バンコマイシン投与量、身長、体重、肝機能、腎機能、バンコマイシンの血中濃度、尿中アルブミン値

【研究実施期間】

2016 年 3 月～2016 年 12 月

【患者さんの個人情報の管理について】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究実施体制】

研究機関： 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者： 教授 荒木 博陽

研究分担者：

准教授 田中 亮裕

副部長 守口 淑秀

副部長 田中 守

室長 渡邊 真一

薬剤師 木村 博史

松山大学薬学部

水間 俊

橋本 満

高取 真吾

重松 舞里絵

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いいたします。

研究責任者： 准教授 田中 亮裕

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

【本研究の結果】

尿中アルブミンが 30mg/g Cre 以上の患者ではバンコマイシンの初回投与設計時において、 $5\mu\text{g/mL}$ 程度値が高くなる可能性があることを念頭に投与設計を行うことで、患者の安全性が向上すると考えられる。なお、本研究の成果は第 26 回日本医療薬学会年会にて発表を行った。